

自分で できるよ！ ／ やってみる！！ ／



- 食事、排泄、衣類の着脱など身の回りのことを自分でしようとする。
- 走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむようになる。
- つまむ、丸める、めくるなどの手や指を使う遊びを楽しむようになる。
- 保育者との愛着関係をよりどころにして、周りの子どもに興味をもち、自ら関わりをもとうとする。
- 自我の育ちの表れとして強く自己主張する姿が見られる。
- 象徴機能の発達により、盛んに模倣し、大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむようになる。
- 生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことを自分なりに表現しようとする。
- 発声が明瞭になり、語彙も著しく増加し、自分の意思や欲求を言葉で表出しようとする。

年度当初は、言葉の理解の差が大きいので、月齢差に応じて考慮する。

家庭との連携 地域との関わり

「いや」と自己主張したり、自分でしたい思いが育ったりする時期であること参観や懇談会で保護者同士が交流できる時間をもち、つながれる場の工夫地域に住んでいる人や働いている人などにあいさつをしたり、声をかけたり園庭や地域の自然に触れる機会をつくり、身近な自然物に興味や親しみを

に共感し、家庭でもしっかりと子どもの思いを受け止め、見守ることが大切であることを伝える。①②に努める。④して、憧れの気持ちや親しみをもてるようにする。(あ)(い)(う)もてるようにする。(え)

ねらい

- 養護
- 教育

- 一人ひとりの基本的欲
- 安全で快適な生活環
- 自己主張を受け止め、
- 言葉にならない行動
- 身近にさまざまな人が
- 生活や遊びの中で、保

求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
境の中で、安心できる保育者のもと、食事・排泄など身の回りのことを自分でしようとする気持ちを育てる。
一人ひとりの気持ちに共感し、自我の育ちを援助する。
の意味や気持ちを理解し、安心して自分の気持ちを表すことができるようにする。
いることを知り、保育者の援助のもとで徐々に友達と関わって遊ぶ楽しさを味わう。
育者が仲立ちとなり、言葉や仕草で互いの思いを伝えたり、感じ取ったりする。

内 容

■ 環境構成 ● 援助

健康

やってみたいな。やってみる！

- 楽しい雰囲気の中で、食事をしたり、安心
- 簡単な身の回りのことを自分でしようとする
- 走る、跳ぶ、またぐ、くぐるなど全身を使う

して眠ったりする。
る。
遊びを楽しむ。

人間関係

一緒にいると楽しいな！

- 保育者との信頼関係を深め、自分の気持
- 遊具の共有や貸し借り、順番を待つなどに付ける。

ちを安心して表そうとする。
友達との関わり方を少しずつ身

言葉

ねえねえ聞いて！

- 生活や遊びの中で言葉や話などを聞き、さ
- 簡単な言葉で伝えようとする。
- 絵本や紙芝居を楽しんで見たり聞いたりを楽しむ。
- 保育者と一緒に簡単なままごとやごっこ

まざまな出来事に関心を示し、
し、繰り返しの言葉の模倣
遊びをする中で、言葉のやり取

環境

なんだろう？面白そう！

- 身の回りの小動物、植物、事物などに興
- 見たり、触れたりしようとする。
- 探索を繰り返し、水、砂、土、草花などに触
- 入れたり、流したり、のぞいたりして、さまざ
- 生活の中でさまざまな音や形、色や味、香
- ることを楽しむ。

味、好奇心をもち、それらをよく
れたり、用具を使ってすくったり、
まな遊びを楽しむ。
りなどに気付いたり、感じたりす

表現

みてみて できたよ すごくでしょ

- 保育者と一緒に歌ったり簡単な手遊びを
- かしたりして遊ぶことを楽しむ。
- 生活や遊びの中で、興味のあることや経験
- 保育者や友達と一緒に身近な生活経験を
- まごとやごっこ遊びなど)を楽しむ。

したり、音楽に合わせて体を動
したことを自分なりに表現する。
通して、見立てやつもり遊び(ま

- 「自分でやる」「いやだ」と言っている子どもなりの気持ちに寄り添い、関わる。
- 身の回りのことをしようとしている時はゆっくり待ち、できた時は一緒に喜ぶ。
- 歩いたり、走ったり、跳んだりできるよう、巧技台や運動遊具などを用意する。
- いろいろな動きを十分に楽しみながら、身体機能の発達を促すことができるよう、安全面に留意する。
- 思い通りにいかない時など、不安定な感情から立ち直る経験や、感情をコントロールしようとする経験を積み重ねられるように見守り、温かく関わる。
- 周囲の子どもに関心が強くなりぶつかりあいが多くなるので、互いの気持ちを受容し、友達の存在や気持ちに気付くよう根気よく関わり方を知らせていく。
- 玩具や用具の数の調整を行ったり、順番を分かりやすく示すことで貸し借りがスムーズに行えるようにする。
- 保育者や友達の言葉や話に興味、関心をもって、聞いたり話したりできるようにする。
- 子どもの話はやさしく受け止め、自分から大人に話しかけたいという気持ちを大切に、楽しんで言葉を使えるようにする。
- 保育者が仲立ちとなり、生活や遊びの中で友達との言葉のやり取りを楽しめるようにする。
- ● 生活や遊びの場面において、自分でもやってみたくするような言葉がけや環境などを工夫する。
- 季節の自然に触れ身近な草花で遊んだり、水や土、泥に触れて遊んだりできるよう、バケツやスコップなどの用具や、摘んでもいい草花などの用意をするなど環境を整えていく。
- 戸外遊びを十分に取り入れる。
- 季節の歌や子どもの興味のある曲などを用意し、歌ったり、一緒に体を動かしたりして、楽しめるようにする。
- いろいろな素材に触れて、それらを使ってかいたりつくったりすることを、少人数でゆっくり楽しめるよう場所や時間などを確保する。
- 生活や遊びの中で見たことや経験したことを大人とのやり取りで再現しながら、表現することの芽生えや喜びを育てるようにする。

※数字①～④は全体的な計画の「家庭との連携」を具体的に表したものです。
※ひらがな(あ)～(お)は全体的な計画の「地域との関わり」を具体的に表したものです。

子どもとSDGs【2歳児】



食べることの
楽しさやうれしさを感じる

調理員と保育者が連携し、子どもたちが安全で栄養のある食材に触れ、「食べられること」への感謝の気持ちが培われるようにしていきます。「食べられることが嬉しい」「食べ物を大切にしよう」という思いは、食品ロス削減への意識につながります。

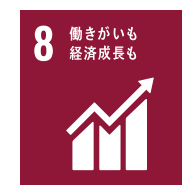
おいしいね～

今日は何が
入っているのかな？
食べるのだ～い好き



お庭で収穫した野菜が
入っているんだって

つくってくれた人への
感謝や
食べ物を大切にしようとする
気持ちをもつ



遊びの選択を自由に行える環境を整えることで、「女の子だから」「男の子だから」という性別による固定概念にとられない保育を進めていき、各々の選択や違いを尊重し認め合える仲間づくりを大切にしています。



何色に
しようかな？

自分のしたい遊びを自由に選ぶ

ぼくがご飯つくるね

わたしはあかちゃんに
ご飯あげるね



2歳児になると、体験したり見聞きしたことを再現する、身近な人の生活をまねるなどのごっこ遊びが始まります。身近な体験を通して、役になりきったり、役割を楽しんだりしています。その経験は、役割をもって「働く」という社会があることを知るきっかけになります。